

研修レポート

碧南市民病院 研修医 2年目

3週間という短い間でしたが新城市民病院で地域医療研修を経験させて頂き本当にありがとうございました。研修環境を整えて頂いた事務の皆様、温かく迎えてくださった病院スタッフの皆様、中心となって指導して下さった総合診療科の先生方には大変お世話になりました。

今回研修の中心となったのは総合内科の初診外来。普段はとにかく時間に追われ、ろくに検査を吟味することもなくひたすら来る救急車と救急外来を回すことで一杯の診療を行っているため、外来の初診外来と救急外来の間診や考え方のプロセスの違いにずいぶんと戸惑うことになりました。救急外来では緊急でないことを確認したら、次の日の外来につないだり、入院が必要であればその旨上級医に連絡したりの繰り返しで、ほぼルーチンである初動検査と治療を行ったらその後はほとんど研修医の出番がない場所です。もちろんそれはそれで必要なことではありますが、ここでは普段おざなりになりがちなお問診、診察について、一つ一つ丁寧なフィードバックを頂くことができ、自分がなんとなくやっていた問診や診察技術についてもう一度見つめ直す機会となりました。

他にとても勉強になったのが毎日朝夕に行われる振り返り。我々研修医だけではなく、全ての外来診療について出席された先生方にプレゼンし、確認してもらい、そのつどフィードバックを受ける。自分の対応が合っているのか間違っているのか分からないまま、何となく過ぎていってしまうことはなく、必ず誰か別の人に確認してもらえる機会がある。実際に毎日集まってそれだけのことをするのはとても大変なことだと思いますが、それが当たり前になっていることがとても素晴らしいことだと感じられました。

また研修の合間に設定された老人医療保険施設や助産所の見学は、まさに高齢化、少子化、産科の減少と出産難民など、地方都市の問題点とそのまま直結する部分が強く、今後同じような医療過疎地域と関わる機会が多いと思われる自分にとってはとても考えさせられる機会となりました。現場ではなんとか工夫してやりくりしており、これらの知識の一部はいずれ何らかの形で応用できるのではと期待しています

研修最終週では長いことこの地域の医療に貢献されてきた先生と作手診療所へ訪問し、医療資源の少ない中どのように勉強していくのか、どのようにして質のいい情報を手にしていくのか、どのようなことを考えながら診療を行っていくのかという今後必須となる考え方を学ばせてもらいました。これらの知識は今後自分の財産となっていくことでしょう。

短い期間であっても大変に充実した研修をさせて頂きました。初期研修としては残り僅かですが、研修期間のみならず、今後の自分の医師としての人生の中で基盤となるようなことをたくさん教えて頂いたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。